

No.	提案名	提案団体名	
		代表者氏名	所 属
5	20年先の宇都宮市を私達の目線で考える	放送大学 宇都宮の中心市街地を考える会	
		上村隆行	放送大学教養学部
		指 導 教 官 氏 名	日 高 定 昭 (作新学院大学)

1 提案の要旨

現在宇都宮の中心市街地は、昭和30年代40年代の輝かしい栄華は薄れ、通行人の数が減少し、空洞化が叫ばれています。この事に危機感を持つ行政、商店連合会の方々の働きかけが効果的に作用しています。そして微弱ながら増加傾向にあります。私達は以下のような提案を致します。それは後世に語り継ぎたい歴史や文化資産を掘り起こしたいということです。

つまり文化財のすぐそばにあるにもかかわらず、高層ビルを立ち並べてしまうような経済優位性をやめ、ヨーロッパ型の歴史と文化を大切とした旧市街地の保存、郊外に住宅地を移すことを提案します。

そもそもヨーロッパ型とはどういう意味でしょうか。

【ヨーロッパ型都市の利点その1】

それは市庁舎があり、隣には教会があつてその目の前に広場が広がっています。またはそれらを囲むように城壁がある都市もあります。そしてそのまわりに市民住宅街があります。

広場では聖人の祝日に定期市が開かれ、また宗教行列やカーニバルなど様々な祝祭や、見世物が行われます。

その際に、魅力的な行事を盛り込むことにより、多くの来場者を呼べます。

ポイントは来た方に満足して帰っていただくことです。

その方々は自分の家族または友人に宇都宮に行って面白かったことを言うでしょう。すると、「本当？じゃあ行ってみようか。」となり、足を運びます。そして、楽しければまた誰かに伝えるだけではなく、もう一度来てくれるでしょう。来てくれた方々が宇都宮の情報を発信するメリットが付きます。

【ヨーロッパ型の都市の利点その2】

特にヨーロッパ型の凄いところは広場が避難所の役目を果たしてくれることです。

足の悪い障害者の方、お年寄りの方が遠い避難所に逃げなくてもいいのです。逃げ遅れて命を落とすこともありません。

広場が避難スペースを確保し、それによって多くの命が救われるだけではなく、安全な

まちづくりを生み出すことができるのです。

【ヨーロッパ型の利点その3】

広場は安全な場所というメリットだけではありません。都市民の政治集会や都市当局の布告が告げられる場となっています。

アナウンスは住民の生活において持っても重要なものです。しかし、アナウンスの声は逃げやすく、距離が遠ざかれば遠ざかるほど声が聞き取りづらくなる不利な点があります。これでは聴覚に障害のある方のもとへ情報が入りません。

しかし、都市の住民を広場に集め、人々の前で役所の人が情報を提供すれば、皆平等に必要な情報を共有できます。聞き逃してしまった方、聞こえづらいと思った方は聞き直したり、隣の人に教えてもらえます。

こうして的確に、素早く大切な情報を得ることができるのです。

【さらに提唱！高齢化社会に備えた安全安心なまちづくり】

社会のめまぐるしい変化によって若者たちは過酷の環境に身を置いています。能力のないと判断されたものは容赦ない切捨てに遭います。若者たちはそんな状況の中で必死に生きています。一方お年寄りの方は、お仕事を定年退職したあと、新しい生活に入ります。環境の変化はお年寄りにとって戸惑うことばかりでしょう。ましてや体も年とともに自由がきかなくなり、外出もままならない人も出てきます。ともに孤独を感じている筈です。

そこで私たちは若者とお年寄りの共同生活を提唱いたします。

つまり、町の中心部に若者、お年寄りが一緒に住み、若者がお年寄りに代わってお買い物をしたり、もしお年寄りが具合を悪くされた場合、病院に連れて行くことが可能です。

こうすると、高齢者の事故を減らせます。事故がなければ巻き込まれて亡くなる方も少なくなります。

また広場で行われ行事に若者とお年寄りと一緒に出掛け、楽しみ、世代の違う人たちの交流を図ります。

絆を深めていく中で、若者たちは重い口を開くでしょう。悩める若者たちの相談相手にお年寄りはいかがでしょうか。お年寄りが色々の経験を語ることによって若者たちは「自分は一人ではない」と気づくでしょう。

人は社会に生きているわけですが、社会はもともと人と人との交流によって成り立っている筈です。

人との交流の中で次世代を担う若者の教育はすべきなのです。

【意外と知られていない栃木の食の豊かさ】

栃木県はお米がおいしく、味は新潟のコシヒカリと並び称されます。しかし、知名度が低く、安価であるのが現状です。そこで栃木県はどのような農業をしているのか興味を持ってもらいたいと考えます。

栃木県は自給率75%、かたや日本の首都である東京の自給率は僅か1%にすぎません
【農林水産省参照】日本は海外と比べて自給率が低下し、危機的な状況と叫ばれています

が、それを阻止するために何をすべきかということを考えたら、自給率の高い県に学ぶ、これが一番の策だと思います。

日本の大麦の需給【単位 千トン】 「日本国勢図会2010/11第68版」による

	1, 934~3 8	1, 990	2, 005	2, 008
生産	731	323	171	201
輸入	14	2, 211	2, 030	1, 811
輸出	34	0	0	0
供給量	711	2, 590	2, 265	1, 961

農林水産省「食料需給表」による。1980年以降は会計年度。供給量は在庫の増減を考慮した。

以上から日本が輸入に頼る危機的状況が窺えます。

【栃木県の作物収穫量】

この深刻な状況を打開するために私たちはまず栃木県の作物収穫量を調べました。こちらがこのグラフです。【単位 トン】 【対全国比】 【順位】

米	345, 500	4, 1	全国8位
はくさい	25, 900	2, 8	6位
トマト	36, 600	5, 0	6位
日本なし	23, 700	7, 2	5位
いちご	30, 000	15, 7	1位

すべて日本国勢図会2010/11第68版を参考（米は2009年産、それ以外は2008年産）

この結果、栃木県は他県に負けず劣らず素晴らしい生産高を誇っています。この事実を是非知っていただきたいのです。

そしていま若者離れが著しい伝統食をもう一度見直し、さらに栃木県の豊富にある産物を取り入れて、新たなメニューを作り出し、栃木にしかない食文化の発信を計画します。現在、宇都宮は餃子だけではありません。ラーメンや、焼きそばのお店が増え、一部の店がテレビで紹介され、全国の食通の注目を集めているのです。

2 提案の目標

【1】 宇都宮に眠る歴史的遺産

栃木県の観光地として、国際的に有名な場所として日光、足利、益子があげられます。

しかし、宇都宮にも歴史的な財産が存在します。

【宇都宮氏の功績】

今年は親鸞聖人生誕750年にあたり各地でイベントが開かれています。下野の地に宇都宮5代頼綱が招き、庇護しました。また、二荒山神社は、中世に宇都宮氏が神官を務め

ました。そんな頼綱でしたが、彼は後に初代将軍源頼朝亡き後権力争いに巻き込まれ、謀反の疑いをかけられてしまいます。頼綱は謀反の意志がないことを示すため書類をしたため、出家、法名を蓮生法師と号しました。

彼の娘は歌人藤原定家の長子、為家に嫁し、その子為氏、為教はそれぞれ、二条家、京極家を起こしました。蓮生法師は定家、為家を師として和歌の道に精進し、宇都宮一族の人々も京に上がるごとに彼らの指導を受けました。こうして宇都宮歌壇が形成され、その伝統は南北朝時代にまで継承されました。鎌倉時代の勅撰和歌集などに宇都宮歌壇の人々の詠歌が載っています。有名な小倉百人一首も、蓮生法師が嵯峨の中院に住んでいたころ、小倉荘に住んでいた定家に依頼して揮毫してもらった色紙と伝えられています。

宇都宮氏が有名な小倉百人一首に関連しています。

県庁周辺には、歴史と文化の薫りあふれる史跡が綺羅星の如く存在します。興禅寺は八代宇都宮貞綱公が改祖です。鎌倉時代、執権泰宗の命で若干16才で総大将になり北九州で元寇を迎え撃つため冷静な判断で石累を造りました。

【本田正純の功績】

時代は下り、江戸時代初期。宇都宮城主となった本田正純（まさずみ）は城内の寺社群を街道沿いに再配置するなど城下の防御能向上を促進しました。正純の行った大改修工事の結果、宇都宮城下は城下町、門前町、宿場町など各機能を持つ都市に再編されました。正純が再編した都市基盤は宇都宮の基礎となりました。宇都宮発展に貢献した正純でしたが、二代将軍徳川秀忠が日光東照宮に詣でた際宇都宮に宿泊の折、つり天井にて秀忠を圧死させようとしたとして、宇都宮15万5000石を改易されるという憂き目にあってしまいます。それが中心市街地のオリオン通りの近隣にあります。

又、江戸時代末期三代あだ討ち「浄瑠璃坂のあだ討ち」や「牧水」等の歌碑及び昭和初期歌人の墓地があります。県庁の北西には学問の神様、蒲生神社があります。

亀井の井戸は静御前が平泉に匿われた義経を追って、行き着いた下野の国で疲れ果て、同行した従者、亀井五郎がもはやこれまでと槍をつきたて、そこから水が湧き出ました。静ののどの渇きを潤しました。ところで、前述の二荒山神社は頼朝が奥州征伐に戦勝祈願を行いました。つまり、宇都宮は歴史の交差点としてとしてロマンあふれる重要な存在であったということです。

【都会の家族農業体験コーナー】

ですが、このような、歴史文化を散策するには一日では不足です。そこで、例えば希望する都会の人達を郊外の農家に滞在するファームステイを提案します。

都会はビルの山がそびえ立ち、自然に触れるのはまれです。さらに人間関係の希薄を懸念されています。

ですから、親子の農業体験コーナーを主催し、自分たちの口に運ばれる食物がどのように育ち、農家の方々がどのような気持ちで自然と向き合っているのか、仕事の姿勢も学んで欲しいと思います。そして取り立ての食材を親子で食べてもらおうと考えています。

「おいしいね。」

それは、農家の人を喜ばせるだけではなく、声を掛け合うことによって親と子の距離を縮めます。

今、日本の文化は外国で大きな評価を得ています。外国人観光客に和風の旅館に泊まっていただき、日本の食文化を知っていただくのを目的としています。そのためには、外国人の旅行客のため日本語のみならず、英語、フランス語イタリア語、中国語、ハンデル語で書かれた ETC でかかれた標識が不可欠です。

また彼らと交流する場所が必要となります。

3 現状の分析と課題

【宇都宮を囲む危機】

リーマンズショック以降の中心市街地におけるチェーン店の撤退、3月11日以降の計画停電により、大企業の休日がまばらになり、集客日が予測できずになりました。また、ギリシャ危機からEUの経済が不安定になり、アメリカの10%を超える、失業者問題を解決できない政府に対しての不信感から円が買われ、円高に推移して、輸出産業に打撃を与え、産業の空洞化に拍車をかける懸念があります。

国内の産業が縮小しては、日本が誇る高度の技術が若者たちに伝わりません。

栃木県に目を向けますと、宇都宮の中心市街地はモータリゼーションの発達により、郊外大型店舗に集客力を奪われました。また、インターネットの普及により、消費者行動に変化がみられ、在宅購買者が増えています。この20年間国の規制緩和政策の中で、特に中心市街地から郊外への購買力のシフトが見られています。

しかし20年後、30年後皆さんは今と同じように車を運転できるでしょうか。近年は、お年寄りのブレーキとアクセルのふみ間違いによる車の誤作動が問題となっています。

車は遠くに行けて便利です。しかし、車を使いこなすにはルールが必要です。

近年は、お年寄りのブレーキとアクセルのふみ間違いによる車の誤作動が問題となっています。

【これからの宇都宮】

最近、最大の人口層、かつ労働力人口の中心であった団塊の世代が定年退職を迎えていることが話題になりました。お年寄りが増える一方なのに、子供は減り続けている。少子高齢化の進展の中、都市の在り方の変化を考える時期に来たのではないのでしょうか。

私たちは、訴えます。

1 これからは公共交通機関中心、市街地中心部への人口移動など今までとは正反対の社会の発展が求められる。

2 地域の良さに目を向け、都市の規模からいうとヨーロッパ型都市づくりを参考にする必要がある。

3 栃木、宇都宮は、食、自然、歴史の豊かな地域である。その利点を見直し、中心市街地で人々が真の意味の豊かさを追い求める生活形態を模索すべきである。

町は人と人が集まってできています。危機的状況だからこそ人と人が手を携えなくては行けないのです。私たちは絆こそ一番の解決策だと信じています。

参考文献 「日本国勢図会2010/11第68版」、「益子の歴史」ホームページ図録
都道府県別の食料自給率、wikipedia 宇都宮城、宇都宮氏、宇都宮城釣天井事件、白拍子、
静御前、ホームページその後の静御前 横井寛 による